



JSQC ニュース

No.382, 383合併号

発行 一般社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス 学会名称変更に関する会員アンケート結果
- 2-私の提言 品質管理教育の社会への貢献
- 2-ルポルタージュ 第422回事業所見学会ルポ
- 3-第2回Webトークルポ/研究会だより
- 4-総会告知/3・4・5・6月の入会者紹介/論文募集/行事案内/会費請求

学会名称変更に関する会員アンケート結果

庶務委員会委員長 金子 雅明

1. アンケート実施概要

2020年の創立50周年を契機に、学会名称の変更検討の一環として、2019年8月から9月にウェブアンケートを行いました。準会員/公共会員を除く、メールアドレスの登録がある会員1,879名（個人会員1,745名、賛助会員134名）に回答URLを送付し、URLをクリックしたのが1,384名、そのうち有効回答数は1,102名でした。質問内容は、学会名称を変更したほうが良い/しないでよいとその理由（自由記述）、及び名称変更する場合の日本語・英語名称についてです。アンケートの主な結果をご紹介します。なお、結果の解釈は人によって異なるため、得られた事実のみ報告します。

2. 主要なアンケート結果

<変更する/しないの回答率とその理由>まず、学会名称に対して“変更したほうがよい”が40.1%、“変更しないでよい”が58.1%でした（回答なしが1.8%）。回答者の約6割が“変更しないでよい”と選びました。その理由527件をグルーピングしたところ、289件（54.8%）と最も多かった理由は「現在の名称にメリットがある」でした。主な意見は、名称が浸透して知名度がある、現学会名称と活動が一致してわかりやすい、伝統がある等です。次に多いのが107件（20.3%）の「名称変更以外による問題へのアプローチ」であり、主な意見は名称変更しても（品質管理を狭義に捉えすぎる）問題は解決しない、活動をもっと普及する施策を打つべき等でした。

3番目に多いのが「名称変更自体には否定的でない」で66件（12.5%）でした。主な意見は、変更する理由が明確になっていない、もっと議論が必要である、でした。

一方、4割の回答者が“変更したほうがよい”と回答しました。その理由322件もグルーピングしました。一番多かった理由から順に、50件（15.5%）の「モノ・ハードウェアのみを対象としている」、39件（12.1%）の「管理=統制、監督、規制という誤解がある」、34件（10.6%）の「時代の変化・要請・ニーズに対応して変えるべき」、27件（8.4%）の「Controlが意味する範囲が狭い」、23件（7.1%）の「製造プロセス・製造現場でのみの活動と捉えている」などです。

<新たな学会名称に関する回答結果>

“変更したほうがよい”と回答した4割の会員のうち、日本語名称のみ変更が13.8%、英語名称のみ変更が5.7%、日本語・英語名称の両方ともに変更が80.5%です。日本語名称に関しては、あらかじめ用意した4つの選択肢に対する回答が全体の87.3%を占めており、内訳は「日本品質マネジメント学会」が34.9%、次いで「日本品質学会」が28.8%、「日本品質経営学会」が16.1%、「日本顧客価値創造学会」が7.5%です。これら選択肢以外では41の候補が挙げられており、「日本クオリティマネジメント学会」「日本品質学会」「日本TQM学会」「日本クオリティ学会」「日本品質創造学会」の順で、複数回答が多く

見られました。

英語名称に関しては、あらかじめ用意した3つの選択肢に対する回答は全体の92%を占めており、「The Japanese Society for Quality Management (JSQM)」が50.9%、「The Japanese Society for Quality (JSQ)」が31.1%、「The Japanese Society for Customer Value Creation (JSCVC)」が10.0%です。これら選択肢以外では28の候補があり、そのすべての回答数が「1」でした。

<賛助会員との比較>賛助会員とそれ以外の会員に層別して比較も行いましたが、全体とほぼ同じ回答傾向であり、顕著な違いはありませんでした。唯一、賛助会員の方が、経営やManagementという言葉が含まれた名称を選択する傾向がより強く見られました。

<賛助会員を除いた、会員の年齢別回答傾向>

賛助会員を除いた全会員の、年齢別回答傾向も見てみました。その結果、40歳から60歳の間は“変更したほうがよい”よりも“変更しないでよい”の回答数がかなり上回っていることがわかりました。40歳以下、及び60歳以上では、両者の回答数には大きな差異は見受けられません。

3. 最後に

このアンケート結果を踏まえて、理事会で慎重に検討しています。議論が不十分なまま拙速に結論を出すつもりはありませんので、49期だけでなく50期も継続審議していく可能性があります。

● 私の提言 ●

品質管理教育の社会への貢献

(有)福丸マネジメントテクノ 福丸 典芳



学習指導要綱が10年ぶりに改訂され、小学校は2020年度、中学校は2021年度、高校は2022年度から新しいカリキュラム

になります。この目指すところは、学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性など」、実際の社会や生活で生きて働く「知識および技術」および未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力など」です。

これをもとに、小学生の算数では、データの収集・分析によって、その傾向を踏

まえて課題を解決し、意思決定する力を育成することが重視されています。これはデータのとり方・まとめ方に関するものであり、3年生では棒グラフの特徴とその使い方、4年生では折れ線グラフの特徴とその使い方、5年生では円グラフや帯グラフの特徴とその使い方、平均の意味、6年生では代表値の意味や求め方、度数分布を表す表やグラフの特徴と使い方、さらに目的に応じてデータを収集したり適切な手法を選択したりするなど、統計的な問題解決の方法を知ることが求められています。

中学の第1学年ではヒストグラム、相対度数、確率、第2学年では四分位範囲、箱ひげ図、第3学年では標本調査と母集団、高校の数学Iでは分散、標準偏差、散布図及び相関係数の意味

やその使い方を学習します。

このため、これらの統計に関する学習をサポートするため、日本品質管理学会は社会貢献の一環として、小学校から高校まで学ぶ統計に関するわかりやすいオンライン無料動画を提供することが急務です。このような活動により日本品質管理学会が社会に認められ、その知名度向上にも役立つと思います。

参考として私は次のような活動をしました。3月からのコロナウイルスの拡散により学校が休校になり、自宅で親が子供に教える機会が多くなってきています。しかし、親からデータの取扱いに関する教え方がわからないので、勉強をしたいとの意見がありました。このため、品質管理に携わっているものとして社会貢献することが大切ではないかと考え、小学校と中学校で学ぶデータのとり方・まとめ方について1時間程度のオンラインセミナーを開催しました。このような活動を進めることで、品質管理に関する情報提供を行うことで社会に対するサポートができたことを確信しました。

第422回
事業所見学会
レポート

(株)小松製作所 茨城工場

2020年1月30日(木)、ひたちなか市にある株式会社小松製作所(コマツ)茨城工場に20名で訪問した。

始めに、鈴木工場長(現 生産本部副本部長)のご挨拶と会社概要を説明いただいた。茨城工場は2007年に真岡工場の分工場として設立、現在は総敷地面積35万㎡の中に、溶接工場、組立工場、試作工場、開発センター、試験センター、試験場、テストコース、トレーニングセンターが一堂に集まっているマザー工場である。生産している主要商品はリジットダンプトラック、アーティキュレートダンプトラックなどの大型鉱山機械であり、主にアジアや北米に輸出されている。大型港である常陸那珂港まで約3.5kmの距離を完成車に近い形で自走運送、出荷されている。

次に、溶接工場と組立工場を見学した。協力企業も含めたコマツグループ全体の生産現場の“つながる化”と“見える化”を実現したKOM-MICSによる、現場情報

のリアルタイム管理と生産・加工情報解析による生産性向上や自社開発溶接ロボットの性能向上などの改善実績と、外製化によるサブ組立化の推進による生産変動に強いライン構築などについて説明いただいた。

見学後、品質保証部佐藤スタッフから、品質問題に対応するために品質保証課の社員自らが海外のお客様の現場に足を運び、直接face to faceで生の声を聞き、現実の状況を把握し、サービスと品質管理と開発の一体化を実現していることを、続いて、人材育成センター桑田所長から若手技能者の育成と同時に指導員のレベル向上に取り組んでいることを説明いただいた。

最後に、総合質疑が行われた。《お客様に満足いただける商品とサービスを提供する》一気通貫システムを着実に構築しているコマツの底力に対する参加者の関心は高く、具体的な実践方法など多岐にわたる質問が出され、一つ一つ詳しくお答えいただいた。

最後となりましたが、ご多忙中にもかかわらず、本見学会開催にご高配を賜り、ご丁寧にご対応いただいたコマツ茨城工場の皆様に心から感謝申し上げます。

海老根 敦子(駿河台大学)

第2回 Webトーク レポート

ISO規格開発における 新型コロナウイルス対応 ～ISO/TC 69 (統計的方法の適用)の例～

今回は、東京理科大学の鈴木知道先生による、ISO (International Organization for Standardization 国際標準化機構) のTC (Technical committee 技術委員会) 69 (Application of Statistical Methods 統計的方法の適用委員会) を例とした新型コロナウイルス対応と規格開発についてのお話でした。

1. 鈴木先生からZoomの投票機能を用いた簡単なアンケート (参加者の属性、参加のきっかけ) があり、最後に結果の紹介がありました。Zoomでこのようなこともできるのだと分かり興味深く参加出来ました。

2. 始めに、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、東京理科大学としては学位記・修了証書授与式中止、入学式中止、学生の大学への入構禁止、そしてテレワークと対応していったそうです。鈴木知道先生自身も現在はZoomによるオンライン授業が中心となっているとのことでした。

3. 続いてISO国際標準化機構の規格開発の流れについての話がありました。規格開発では、NP段階 (新

規格開発提案) を含め4段階の関門があり、各段階で各国委員による審議、各国の投票があり、国際規格発行までに標準で36か月を要するということでした。ISOには分野毎に多くのTC (技術委員会) があり、TC69は「統計的方法の適用」を担当する委員会です、2つのWG (Working group) と5つのSC (Subcommittee 分科委員会) があるとのことでした。鈴木知道先生はTC69運営委員会メンバー、SC6 (測定方法と測定結果委員会) の議長、及びTC69日本国内委員会の副委員長です。新型コロナウイルスの感染が世界的に広がる中、ISO中央事務局は各TCに対して、世界各国の委員が一堂に集まる会議の中止を指示しました。これに伴い、TC69総会も6月に米国ミルウォーキーで開催予定であったが中止となり、その後、TC69の指示により、SC毎の総会をZoom会議で行うことになり、SC4, SC6は6月19日、SC7, SC8は6月18日にそれぞれ行いました。今後も新型コロナウイルス対応が解除されるまではZoom会議を中心に活動されるそうです。ISO/TC69統計的方法の適用委員会には品質管理学会のメンバーも何人か参加していることも分かり、委員会活動の概要を知ることができたことは有意義でした。

石山 一雄 (シックスシグマ品質研究所)

研究会 だより

医療経営の総合的「質」研究会

医療経営の総合的「質」研究会活動記録

永井 庸次 (ひたちなか総合病院)

本研究会の設立理念は、医療・品質管理の実務者、企業のトップマネジメント、アカデミアの品質管理研究者が定期的集い、TQMの考え方から医療全般に関するテーマを検討・提言である。月1回、原則第2土曜日の午前10～12時に練馬総合病院で開催している。

本研究会の主目標には、医療機関におけるTQM普及促進と、医療制度・政策のあり方の提案がある。新型コロナウイルス感染症パンデミックの時代に、医療のIT基盤は必須である。しかし、電子カルテ (Electric Medical Record: EMR) の普及率は、米国医療施設の90%以上に比べるとわが国では47%と大きく出遅れている。さらに、病院間相互にデータを活用し、患者が異なる病院を受診してもデータを活用できる相互運用性も、米国はFHIR (Fast Healthcare Interoperability Resources) 規格の2021年1月までの導入を決めたが、わが国では医療情報化支援基金の創設とともにFHIR導入の是非を国、医療情報専門家等が現在議論している状況である。本研究会では基金の目的、対象 (電子医療記録 (EMR)、電子健康記録 (Electric Health Record: EHR)、個人健康記録 (Personal

Health Record: PHR) のどれを想定?) の明確化はもちろん、標準の実装の標準化も必要であること、さらに過去の取り組みに関する真摯な反省が必要であることを議論・発信してきた。

さらに、品質に関する問題が我が国企業で多発している中、医療を含めた事故多発の背景要因の検討とともに、昨年末から東京理科大学狩野紀昭名誉教授、三井物産藤代康一研究員の参加のもと、中国の医療の質に関する議論を行ってきた。中国では、清華大学医院管理評価研究所を中心に、QC活動を全国レベルで展開し、データを活用し、職種横断的に、目標設定、計画立案、実装・運用の明確化、是正処置などPDCAサイクルを回している。2019年第7回中国病院QCC大会の参加者は3300人、医師：看護師：その他の割合は20：70：10%であった。ITを活用した医療の技術革新が深圳などを中心に進んでいることから、今後はわが国の医療の質関係者との一層の交流とともに、そのポテンシャルや医療 (病院) の生産性にも注視していく必要がある。

第50回通常総会

日本品質管理学会第50回通常総会を右記のとおり開催いたします。

日 時：2020年11月28日(土) 10:00~11:00

場 所：オンライン会議室

2020年3月の入会者紹介

2020年3月17日の理事会において、下記の通り正会員3名、準会員7名、賛助会員3社3口の入会が承認されました。

.....
(正会員3名) ○大西 智之(早稲田大学)
 ○中瀬 卓也(三菱電機) ○石垣 綾(東京理科大学)

.....
(準会員7名) ○高梨 賢人・倉田 翔五・岩田 祥英(早稲田大学) ○河野 直・上田 新大・川端 佑弥(慶応義塾大学) ○梅原 慎吾(東京理科大学)

.....
(賛助会員3社3口) ○丸善石油化学
 ○ジーエスエレテック ○大豊精機

2020年4月の入会者紹介

2020年4月15日の理事会審議において、下記の通り正会員6名、準会員11名、賛助会員1社1口の入会が承認されました。

.....
(正会員6名) ○河尻 耕太郎(産業技術総合研究所) ○筑瀬 猛(シスコシステムズ) ○福田 浩之(ゼノンコンサルティング) ○中西 貴之(宇部興産) ○杉村 歩(日野自動車) ○築場 康司(日本製鉄)

(準会員11名) ○神宮寺 悠(慶応義塾大学) ○高山 莉紗子・石田 圭・金銀実・鄧 吉森(早稲田大学) ○磯野春・秋元 樹・後藤 潤(東京理科大学) ○太田 博也(中央大学) ○松木 唯・柴崎 沙緒莉(東京都市大学)

.....
(賛助会員1社1口) ○TRIART

2020年5月の入会者紹介

2020年5月25日の理事会において、下記の通り正会員5名、準会員20名、職域会員1名の入会が承認されました。

.....
(正会員5名) ○伊高 静(東京理科大学) ○菅野 良一(日本検査キューエイ) ○廣田 和樹(ヤンマーパワーテクノロジー) ○定平 健(川崎市立川崎病院) ○宇高 俊匡(出光興産)

.....
(準会員20名) ○伊藤 世羅・榎本 聡・高濱 翔・吉野 圭徳・井坂 友亮・呉 紅馬(東京理科大学) ○上原 諒介・齊藤 芙佑・北里 礼・伊藤 史世・川上 達也・飯塚 玲夫(早稲田大学) ○瀬良 知也・富尾 燿平・岩間 洋貴・伏原 卓哉(中央大学) ○吉田 陵平・源田 悟史(電気通信大学) ○山添 誉志生・金子 明里咲(東京大学)

「品質」誌、投稿論文の募集!

会員の方々からの積極的な投稿をお勧めします。投稿区分は、報文、技術ノート、調査研究論文、応用研究論文、投稿論説、研究速報論文、クオリティレポート、レター、QCサロンです。

論文誌編集委員会

(職域会員1名)

○松井 弘道(日産自動車)

2020年6月の入会者紹介

2020年6月18日の理事会審議において、下記の通り正会員3名、職域会員1名の入会が承認されました。

.....
(正会員3名) ○若林 宏之(デンソー) ○高倉 宏(トヨタ自動車九州) ○増田 仁志(ポッシュ)

(職域会員1名)

○瀬古 一行(山田製作所)

.....
名誉会員：23名 賛助会員：151社194口

正会員：1776名 賛助職域会員：9名

準会員：82名 公共会員：17口

職域会員：52名

行 事 案 内

●第119回クオリティトーク(東日本)

テーマ：アジャイル開発のプロジェクトマネジメントと品質マネジメント
 -58のQ&Aで学ぶ-

ゲスト：居駒 幹夫氏(青山学院大学)

日 時：2020年9月29日(火) 18:30~20:30

会 場：Zoom会議室(Web)

詳細・申込：<https://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#r020929>

●第117回クオリティトーク(東日本)

テーマ：戦略としてのクオリティマネジメント
 -これからの時代の“品質”-

ゲスト：小原 好一氏(前田建設工業)

日 時：2020年11月2日(月)

申込先：本部事務局

●第50回年次大会(本部) 発表募集

日 時：2020年11月28日(土)

(1)発表申込締切：9月28日(月)

(2)予稿原稿締切：10月28日(水)必着

(3)研究発表・事例発表の申込方法

<https://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#r021128>

●第50回年次大会(本部)

日 時：2020年11月28日(土)

会 場：オンライン会議室

プログラム(予定)

10:00~ 通常総会/各賞授与式

11:00~ 会長講演

13:00~ 研究発表会/優秀発表賞表彰

申込締切：2020年11月18日(水)

行 事 申 込 先

JSQCホームページ：www.jsqc.org/

本 部：TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail: apply@jsqc.org

第50年度会費請求のお知らせ

第50年度(2020年10月1日~2021年9月30日)会費請求書を9月中旬に郵送いたします。

ゆうちょ銀行自動引き落としを利用されている方には請求書を送付いたしておりません。

10月26日に引き落としとなりますので、ゆうちょ銀行口座の残高をご確認ください。